似たもの同士

花浅葱羽羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
似たもの同士

【Ｎコード】
Ｎ５９６６Ｍ

【作者名】
花浅葱羽羅

【あらすじ】
殺したくてたまらないのに好きだと言う少女と、電波受け取ってるのかなとか思ってる図太い精神の少年の思考。

大好きです。そう言う君は僕の首にナイフを押し付けた。ちょっとどころか全く意味が分からない。君の自論によると、僕みたいな人間は大嫌いのはずだ。そう、僕みたいなふわふわとどこにも所属せず、考えていることが良く分からないヤツ（残念ながら自覚済みだ）が大嫌いだってことだよね、つまりは。で、どうして君は僕のことが好きだって言うのさ。君のほうがよっぽど良く分からない人間だよね、違うかい。君の行動はいつだって人と同じようで違うじゃないか、電波をどっからか受け取ってるのかって思っちゃうよ。でも、君は何時でも世界を斜め上から見下ろしているってことは分かるかな。その様子が面白くって、僕は君に声をかけるんだ。特に、何時だって平面的な現実的で自己中心的な世界しか写さない君の黒い瞳は面白い…そう、好きかな。でも、この状況はいただけない。その僕の好きな瞳に僕だけを写す姿には感動すら覚えるけど、何がしたいかわかんないよね、本当に。つまり、君は僕が大嫌いとか言ってなかったっけ、ついさっき五分前ぐらいに。

大好きです。そう言ってソイツの首にナイフを押し付けた。力加減は適度に調節して、薄い皮が一枚ひらりと、切れるぐらいに。そしたらソイツはほんの少しだけ目を見開いた。それなのに、その眼には恐怖はなかった。普通は怖がるぐらいしますよね、嗚呼私が傷つけないとでも思っているのでしょうか。愚か過ぎて頬が緩みます。私は確かにソイツのことが大嫌いで、具体的には何時でも無表情な表情、眼、言動、そう全てにおいて無表情無関心を装っているところとかそのくせ人にちょっかいをかけてくるところ、良く分からない思考回路の持ち主って言うのが一番なんですけどね。何処に嫌う成分があるのかといいますと、この私にとってわからない人間であるということです。理不尽?上等！私は憎しみすら心に住まわすほ

どソイツが嫌いで・・・興味が尽きない。だってこの私が全く理解できない人間なんて不愉快極まりない上にとても美味しそうな料理じゃないですか。嗚呼、嗚呼なんて美味しそう。カニバリズムは嫌いだけど、この例えが一番合うのです。気味が悪いくらいに。

「だから?どういうことなのさ」
「大好きなんですよ。」

貴方のことが、憎しみで殺してしまいそうになるぐらいに。
何それ僕らは良く似てるのかもしれない。

（（アイ≠スキは当然））

（後書き）

もう少し少女の語りを憎しみ溢れる漢字で書きたかったです。（（（過去形

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5966m/

似たもの同士

2010年10月22日00時03分発行